

投資事業評価調書（新規）

部 局	教育委員会事務局	記 入 者	特別支援教育課長 小俣 千智
課 室 名	特別支援教育課	職 氏 名	(副課長兼教育推進班長 吉山雄二)

1 事業の概要

事業名	阪神北地域新設特別支援学校（仮称） 整備事業	総事業費 （概算）	約32億円
		2年度当初 予算計上額	530百万円 （土地造成、基本・実施設計等）

所在地	川西市丸山台
-----	--------

事業目的	<p>1 背景</p> <p>(1) 特別支援学校を取り巻く環境</p> <p>障害のある子どもについては、一人一人の障害の状態などに応じて適切な教育を行う必要があることから、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級において、特別の教育課程のもと、専門性のある教職員による指導が行われている。</p> <p>県内の特別支援学校に在籍している幼児児童生徒と、小・中学校の特別支援学級及び通級において指導を受けている児童生徒の総数は 19,194 人で、全体の約 3.48%に当たる（令和元年5月1日現在）。</p> <p>また、平成19年度の特別支援教育制度改正以降、特別支援学校に対する保護者の意識の変化が進んでいること、障害のある子どもに対しては早期からの専門的な支援が効果的であることが広く認知されていることなどから、特別支援教育に対する理解の浸透や期待の高まりにより、これらの児童生徒数は年々増加しており、特に知的障害特別支援学校在籍児童生徒数については、全国的にも大きく増加している。</p> <p style="text-align: right;">【資料5-1】</p> <p>(2) 課題</p> <p>県教育委員会では、「兵庫県特別支援教育第二次推進計画（平成26～30年度）（5年間）」において知的障害特別支援学校在籍児童生徒数が平成30年度にピークを迎えるという推計に基づき、姫路しらさぎ特別支援学校や西神戸高等特別支援学校の新設、猪名川高等学校へのこやの里特別支援学校分教室の設置、芦屋特別支援学校やこやの里特別支援学校への仮設校舎の設置などを進めてきた。また、神戸市においても、HAT神戸地域に市立特別支援学校の整備を進めている（令和3年度開校予定）。</p> <p>この度、「第二次推進計画」の課題及び国の動向を踏まえ、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築のため、特別支援教育のさらなる充実を図ることを目的として「第三次推進計画（平成31～令和5年度）（5年間）」を策定するに当たり、改めて児童生徒数を推計したところ、知的障害以外の児童生徒数は横ばいまたは若干減少傾向にある中、知的障害特別支援学校在籍児童生徒数は今後も引き続き増加傾向であることが判明した。特に狭隘化の著しい阪神地域の特別支援学校への抜本的な対応が必要となった。</p> <p>【参考】 県内公立特別支援学校児童生徒数の推移（第三次推進計画（H31～R5）より）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30</th> <th>R5 見込</th> <th>増加見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的障害</td> <td>4,531 人</td> <td>5,040 人</td> <td>+509 人</td> </tr> <tr> <td>知的障害以外</td> <td>1,087 人</td> <td>1,050 人</td> <td>△37 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,618 人</td> <td>6,090 人</td> <td>+472 人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【資料5-2】</p>	区分	H30	R5 見込	増加見込	知的障害	4,531 人	5,040 人	+509 人	知的障害以外	1,087 人	1,050 人	△37 人	計	5,618 人	6,090 人	+472 人
区分	H30	R5 見込	増加見込														
知的障害	4,531 人	5,040 人	+509 人														
知的障害以外	1,087 人	1,050 人	△37 人														
計	5,618 人	6,090 人	+472 人														

2 目的

こやの里特別支援学校では、児童生徒数の急増に対応するため、これまで、①特別教室の普通教室への転用、②猪名川高校への分教室の設置、③運動場への校舎の増築、などにより教室確保に努めてきた。しかし、現状でも運動場が常時使用できず、教育活動に制約がある中、これ以上の児童生徒数の増加は教育活動に支障をきたすため、川西市内に新たに県立特別支援学校を整備することで、学校規模の適正化及び児童生徒の通学時間の改善を図る。

【参考】こやの里特別支援学校の在住市町別児童生徒数（R1.5.1現在）

通学区域	伊丹市	宝塚市	川西市	猪名川町	西宮市 (塩瀬中校区)	合計
児童生徒数	117人	102人	85人	12人	7人	323人

※在宅・訪問学級の児童生徒数を除く

事業内容

1 事業内容

(1) 新たに整備する学校の概要

対 象 知的障害のある児童生徒
 設置学部 小学部、中学部、高等部
 規 模 120人
 通学区域 川西市、猪名川町
 教職員数 約80人

(2) 整備概要

整備場所 川西市丸山台（第一種中高層住居専用地域）
 （公益施設用地として開発、現在は遊休地）
 敷地面積 約13,000㎡（川西市から無償貸与）
 施設構造 鉄筋コンクリート造
 交通手段 能勢電鉄日生線日生中央駅から阪急バス約10分

【資料5-3】

(3) 整備内容

	延床面積(㎡)	主な内容
校舎	普通教室	約 1,100
	特別教室	約 1,200
	その他	約 4,500
	小 計	約 6,800
体育館	約900	西神戸高等特支並
プール	約200	西神戸高等特支並（25m×4レーン）
合 計	約 7,900	

(4) 事業費

約32億円（土地造成費、建設費 等）

区分	主な内容	事業費（億円）
土地造成費	土地造成設計・整備工事	約 4 億円
設計管理費等	基本設計・実施設計	約 1 億円
施設建築費	校舎・体育館等建設・設備工事	約 2 7 億円
計		約 3 2 億円

【参考】

学校名	開校年度	普通教室数	延床面積	建築単価
西神戸高等特別支援学校	H29	18室	5,227㎡	220千円/㎡
姫路しらさぎ特別支援学校	H26	37室	9,935㎡	219千円/㎡
芦屋特別支援学校	H22	30室	8,918㎡	219千円/㎡

(5) 選定理由

阪神地域における児童生徒数の急増に伴い、阪神全域を対象に特別支援学校の新設場所の検討を行った結果、

- 阪神北地域から通学する児童生徒の通学時間が短縮できること
- 多様化する教育的ニーズに応じた施設整備に柔軟に対応できること
- 川西市から無償で用地を借りられること
- 現時点では沿岸部での敷地確保の目途が立っていないこと

等の理由から、川西市を候補地として選定した。

事業スケジュール

1 これまでの主な取り組み

平成31年3月 兵庫県特別支援教育第三次推進計画策定
平成31年4月～ 阪神地域の新設校用地を検討
令和元年9月 川西市と学校用地貸与の合意
令和2年1月 総合事業等審査会

2 今後のスケジュール

令和2～3年度 土地造成設計・工事、校舎等基本設計・実施設計
令和4～5年度 校舎等建設工事
令和6年4月 開校

2 基準に基づく評価

項 目	説 明																								
必 要 性	<p>○ 学校規模の適正化</p> <p>こやの里特別支援学校は、設置当初の想定児童生徒数(216人)の約1.5倍の児童生徒が在籍している。</p> <p>年々増加する児童生徒への対応として、①特別教室の普通教室への転用、②猪名川高等学校への分教室の設置に加え、③運動場への仮設教室の増設(96人分)を行っている。この結果、運動場の面積を十分確保することができず、隣接する民間グラウンドを借用しているが、学校行事等に制約が生じている状況がある。</p> <p>今後も引き続き児童生徒の増加傾向が続くことが見込まれているが、これ以上の児童生徒数の増加は教育に支障をきたすため、早急に学校規模の適正化を図る必要がある。</p> <p>また、近隣の特別支援学校も同様に児童生徒数が増加しており、通学区域の見直しによる対応は困難である。</p> <p>なお、芦屋特別支援学校については今年度増築工事を実施しているが、阪神特別支援学校を含め、抜本的な対策を検討中である。</p> <p style="text-align: right;">【参考資料5-4】</p> <p>(参考) 阪神地域の知的障害特別支援学校児童生徒数(R1年度)(在宅・訪問学級の児童生徒数を除く)</p> <table border="1" data-bbox="343 779 1369 958"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>小学部</th> <th>中学部</th> <th>高等部</th> <th>計</th> <th>想定児童生徒数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阪神特別支援学校</td> <td>98人</td> <td>81人</td> <td>141人</td> <td>320人</td> <td>252人</td> </tr> <tr> <td>芦屋特別支援学校</td> <td>85人</td> <td>76人</td> <td>178人</td> <td>339人</td> <td>246人</td> </tr> <tr> <td>こやの里特別支援学校</td> <td>97人</td> <td>84人</td> <td>142人</td> <td>323人</td> <td>※312人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※増築した96人分を含む。</p>	学校名	小学部	中学部	高等部	計	想定児童生徒数	阪神特別支援学校	98人	81人	141人	320人	252人	芦屋特別支援学校	85人	76人	178人	339人	246人	こやの里特別支援学校	97人	84人	142人	323人	※312人
学校名	小学部	中学部	高等部	計	想定児童生徒数																				
阪神特別支援学校	98人	81人	141人	320人	252人																				
芦屋特別支援学校	85人	76人	178人	339人	246人																				
こやの里特別支援学校	97人	84人	142人	323人	※312人																				
有効性・効率性	<p>○ 良好な教育環境の確保</p> <p>特別支援学校を新設することにより、児童生徒数に応じた必要な特別教室等を確保することができ、こやの里特別支援学校の良好な教育環境を確保することができる。また、現在はこちらのこやの里特別支援学校(伊丹市瑞ヶ丘)への通学に最長1時間程度かかっている阪神北地域(猪名川町・川西市北部)児童生徒の通学距離・時間を最大30分程度短縮することができる。</p> <p>一人一人の教育的ニーズへの対応として、小学部・中学部・高等部それぞれの活動領域を明確にした教室配置とすることや、児童生徒が安全・安心に活動できる障害や体格等の違いに配慮したバリアフリー設計、また卒業後の自立と社会参加に向けた地域住民との相互理解を深めるため、地域住民との交流のための多目的スペースやキャリア教育の充実など、共生社会の実現に向けたユニバーサルな学校施設とすることができる。</p>																								
環境適合性	<p>先行事例も参考にしながら、太陽光発電などの新エネルギーの活用や、屋上緑化等も可能な限り採用し、環境に配慮した施設整備を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○西神戸高等特別支援学校(平成29年度開校) 太陽光発電(20kw)、屋上緑化 ○姫路しらさぎ特別支援学校(平成26年度開校) 太陽光発電(91kw) ○阪神昆陽特別支援学校(平成24年度開校) 太陽光発電(20kw)、屋上緑化、緑のカーテン、ガラスパーキング ○芦屋特別支援学校(平成22年度開校) 太陽光発電(20kw)、屋上緑化、農場灌水への雨水利用 																								
優 先 性	<p>知的障害児童生徒の増加が続いており、特に阪神地域の特別支援学校の学校規模が過大化していることから、本県としても早急に対応することが求められている。</p> <p>阪神北地域に特別支援学校を新設することにより、こやの里特別支援学校の狭隘化が解消されるとともに、教育活動の充実を図ることができる。</p>																								